

2016年度 大学史資料センター 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神，教育理念，使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	本センターは2003年4月に、本学の歴史及び卒業生等に関する調査・研究・資料保存・資料利用等を目的として設置された。『明治大学百年史』（全4巻，1986-1994年）編纂によって蓄積された資料の活用と、さらなる調査・研究・アーカイヴズ化の推進を目指し、各種事業を展開している。 学部間共通総合講座・リバティアカデミー（ホームカミングデー）大学史講座・父母交流会講演会・大学史関係書籍等の刊行を通して、学生に対して本学の歩みや理念についての理解を深め、同時に本学への愛着を培っていくこと、また、父母・校友・役員・教職員や一般社会人に対しても本学への関心・知識を広げていくことを目的とする。センターの各種事業を通して、本学の建学の精神である「権利自由」「独立自治」を体現し、社会に貢献できる人材の育成を目標とする。 ○ 理念・目的の明確化 センター運営委員会と各研究会において、センターの理念・目的等と、センターで実行する事業について乖離が生じていないかどうか討議している。					
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	開催されるセンター運営委員会において、センターの理念・目的等と、センターで実行する事業について乖離が生じていないかどうか随時討議している。	・センター運営委員合議により、国立大学アーカイヴズとは異なった、創立者・校史・卒業生に関する調査研究事業を軸に展開している。		・センター所長の下で、ふさわしい検証の方法について検討を深める。		

2016年度 大学史資料センター 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	○大学史資料センター、大学史展示室、明治大学阿久悠記念館 本センター及び大学史展示室は、本法人並びに校史に係る資料の収集、調査及び公開をもって本学の発展に資することを目的として設置している。また、日本を代表する作詞家・作家で本学卒業生である故阿久悠氏の業績をたたえ、その遺産を次世代に継承していくために2011年度に設置された明治大学阿久悠記念館の管理運営を行う。2016年度から同館に運営責任者（吉田悦志センター運営委員）を置き、館運営の円滑化を図っている。また4キャンパスで展開する学部間共通総合講座「明治大学の歴史」において、本学の建学の精神等を学生に対して講義し、もって建学精神の構成員への浸透を図っている。				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	センター所長から教育研究にかかる事業計画の提案を行い、センター運営委員会において機関承認をしている。またセンターに設置した研究部会である創立者研究会（山泉進代表）、人権派弁護士研究会（第Ⅱ期）（山泉進・村上一博代表）、アジア留学生研究会（高田幸男代表）、財界人研究会（白戸伸一代表）、昭和歌謡史研究会（吉田悦志代表）、文学者研究会（吉田悦志代表、2016年度新規設置）、特別資料研究会（山泉進代表）の各代表から、各研究部会において推進している調査研究の推進状況と計画について、センター運営委員会において、随時報告提案し承認を得ている。 学部間共通総合講座「明治大学の歴史」については、センター運営委員会でコーディネーターとカリキュラムについて検討及び決定を図っている。	・適切な調査研究計画に基づき、本学の校史及び多様化する校友の活動の解明を図り、本学の建学の精神をより明らかにするとともに、学生や教職員にその精神を広く伝えることに寄与している。 ・2017年度の100分授業に合わせ、学部間共通総合講座の授業用教材として、大学史にかかる映像資料の整理を行い、授業テーマに応じて映像資料を使用できるようにした。		・2018年度を目処に共同研究成果及び授業テキストとして『山崎今朝弥研究』を刊行する。 ・2017年度後期を目処に授業テキスト『明治大学の歴史』を刊行する。 ・大学史に係る映像資料のデジタルデータ化を行う。	

2016年度 大学史資料センター 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか						
a ●方針に沿って、社会連携・社会貢献を推進しているか。	<p>① 教育研究の成果をもとにした社会へのサービス活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閲覧希望者に対して研究資源の公開として所蔵する大学史資料のレファレンスサービスを実施している。 ・社会に開かれた大学として、展示・閲覧に係る大学施設を開放し地域連携等に貢献している。 ・「明治大学文化人論」（リバティアカデミー公開講座 10月23日） 第19回ホームカミングデー公開講座として開講した。約190名が参加した。 ・「明治大学今昔物語」（父母交流会講演会 11月27日） 今回が初めての試みとなる。明治大学創立者及び阿久悠について、学生の父母約100名を対象にわかりやすく紹介した。 ・「厚田ふるさと平和・文学賞」設立記念講演会及びシンポジウム（8月29日） 北海道石狩市厚田に本学出身の歴史小説家・子母澤寛等の顕彰と後継の才能を発掘を目的とした同賞が置かれた、設立記念講演会及びシンポジウムでは大学史資料センターが協賛し、約100名が参加した。今後も子母澤研究と同賞の審査等及びイベントに協力する予定である。 ・第52回明治大学全国校友鳥取大会記念講演／鼎談／パネル展示（11月13日） 鳥取は、創立者岸本辰雄の生誕地であり、同地での校友大会開催にあたり、記念講演、鼎談及びパネル展示に協力した。一連の企画に約900名が参加した。 ・機関誌として『大学史紀要』第22号（阿久悠研究Ⅲ）及び同23号（山崎今朝弥研究Ⅲ）を刊行し、編集委員会による適切な査読体制のもと、その成果の発信を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会連携事務室、校友支援事務室、関係自治体及び他大学類縁組織と連携した事業について実績が着実に挙げられている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・2017年7月に、校友山崎今朝弥に関する講演会を開催する。 ・9月に、阿久悠没後10年記念企画展示及び講演会を開催する。 ・社会連携事務室と連携し、10月開催のホームカミングデーにおいて、本学校友に関する公開講座を実施する。 ・父母会連携事務室と連携し、11月開催の父母交流会において、本学創立者に関する講演会を実施する。 		
	<p>② 学外組織との連携協力による教育研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立者出身地域の歴史関係機関、校友会等関係者と随時的交流を図り、連携して調査研究を実施している。 ・『明治大学校友会史』の編纂協力を行っている（2014年度から）。 ・鳥取大学全学共通科目「鳥取学」への講師派遣を行っている（2010年度から）。 			<ul style="list-style-type: none"> ・2018年1月に、石狩市と共催で、子母澤寛企画展及び講演会を開催する。 ・2018年1月に、本学・専修大学・法政大学・中央大学・日本大学と共同で展示会「神田学生街の記憶」（E COM駿河台）を開催する。 		

2016年度 大学史資料センター 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください				当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	運営委員会、各研究会において日常的に自己点検・評価を実施している。毎年度の自己点検・評価は、運営委員が検証し、改善策の検討を行うとともに、自己点検・評価とその結果を公表している。					
(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ● 文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	自己点検・評価を実施し、その結果を次年度のセンター事業計画に反映することで、改革・改善につなげている。目的から始まるPDCAサイクルをつくることで、内部質保証システムを構築する。毎年度、事業計画の策定、予算策定期間に改善につなげるようサイクルとして機能させる。	・各種学術交流や、全国 大学史資料協議会などを通して、他大学類縁機関の研究推進状況やそのあり方について情報収集を進め、センターの事業計画に反映させている。				
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか						
a ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫 <参考：以下の事項に関して、関連するものについて記述する> ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など	・2017年度から運営委員3名の増員を図った。今後も円滑に教育・研究事業を遂行するため、計画的に改善を図ることとした。 ・本学の創立150周年（2031年）を見据え、「150周年編纂準備委員会」を組織し、沿革史『明治大学150年史』（仮称）編纂及び創立以来の大学の来歴評価に必要な情報収集を開始した。	・150周年を見据え、大学の多様なあり方を把握するために欠かせない、大学国際化の動向や、財政史について知見の深い運営委員を増員した。		・他大学の沿革史編纂情報の収集に努めながら、2020年度を目標に、編纂計画を策定する。		

2016年度 大学史資料センター 自己点検・評価報告書

2章根拠資料

学部間共通総合科目明治大学の歴史（2016年度受講生数）

キャンパス	開講期	種別	合計
駿河台	春	I	111
駿河台	秋	II	61
和泉	春	I	190
和泉	秋	II	190
生田	春	I	275
中野	秋	II	19
計			846

8章根拠資料

（講座受講生数）

年度	年間講座数	募集人員	参加者	平均受講者数
2006年	1	30	11	10
2007年	1	30	13	15
2008年	1	30	17	15
2009年	1	30	11	9
2010年	開講せず			
2011年	開講せず			
2012年	1	200	200（概数）	
2013年	1	300	150（概数）	
2014年	2	500	400（概数）	
2015年	2	280	150（概数）	
2016年	4	1300	1090（概数）	

10章根拠資料

委員会等の名称	主なメンバー、人数	開催日
大学史資料センター運営委員会	大学史資料センター所長、同副所長、同委員計15名 ※2017年4月より3名	2016年 7月27日
		同 9月28日
		同 12月21日
		2017年 1月25日
		同 3月22日
		同 4月26日